

5. 公開活用計画

(1) 動線計画

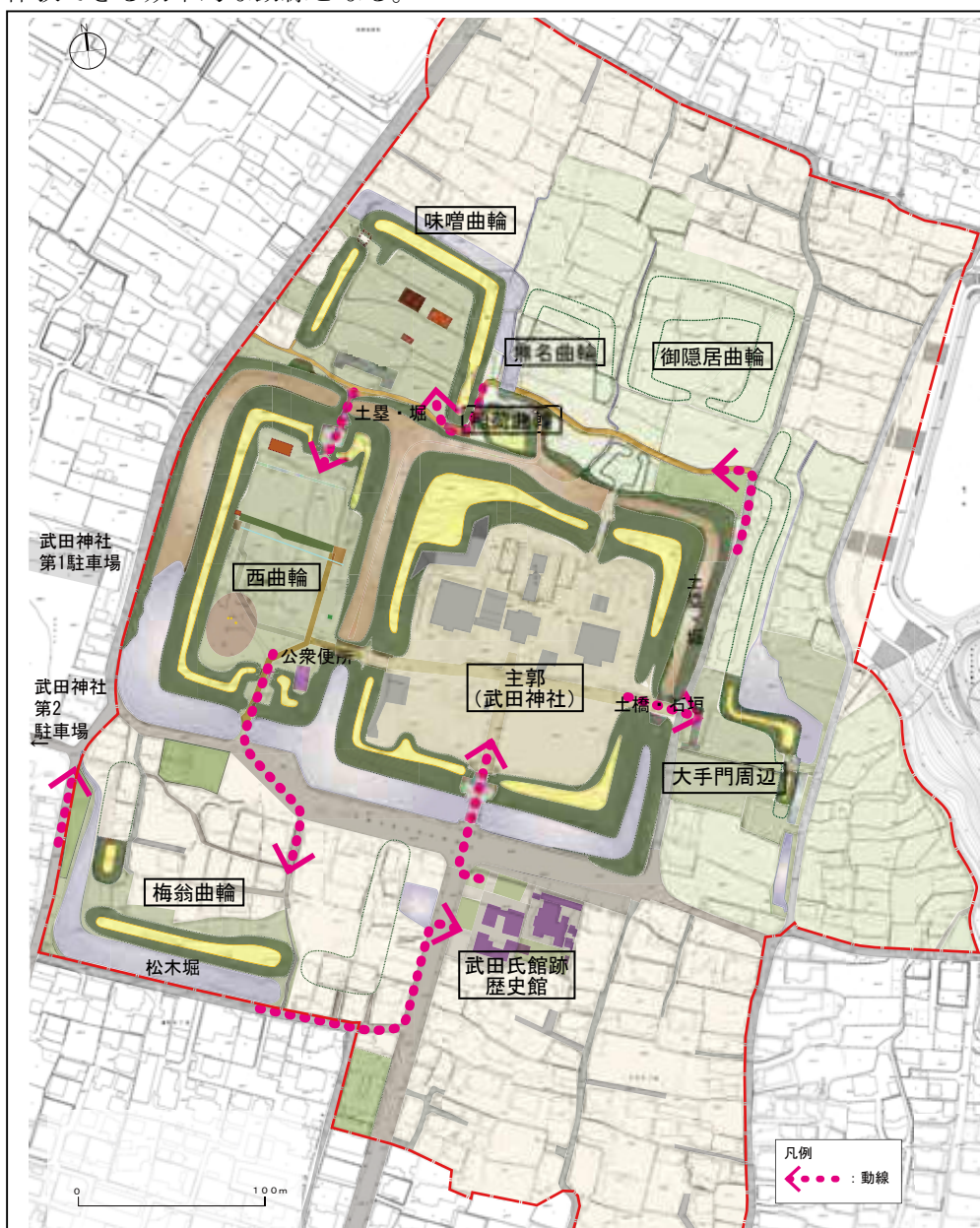
現状における来場者の動線は、武田氏館跡歴史館と主郭（武田神社）に訪れるものの整備地点まで到らないものが大半であり、史跡の整備範囲全域を巡る回遊動線の創出が課題となる。

本来、動線は来場者が各々の目的に応じて自由に物語を綴りながら巡るものではあるが、史跡の価値への理解が得やすいポイントや武田氏館跡歴史館との連携、ボランティアガイドの活動が効果的に展開しやすいモデルコースを設定して、サイン類や案内マップ等に活用する。

① 館の基本構造を知るコース

武田氏館跡歴史館→主郭（武田神社）→大手門周辺→御隠居曲輪・無名曲輪・稲荷曲輪
→味噌曲輪（土塁・堀・馬出）→西曲輪→梅翁曲輪→武田氏館跡歴史館・駐車場

主郭本来の出入り口は大手門である。しかしながら、武田神社の参道となる堀を橋で越える南側からの進入が一般的であり、主郭を大手門から出て大手門東史跡公園を見学の後、北側の各曲輪を経て西曲輪、梅翁曲輪に到る。整備した主要地点や主郭・西曲輪の虎口・堀・土塁の規模を体験できる効率的な動線となる。



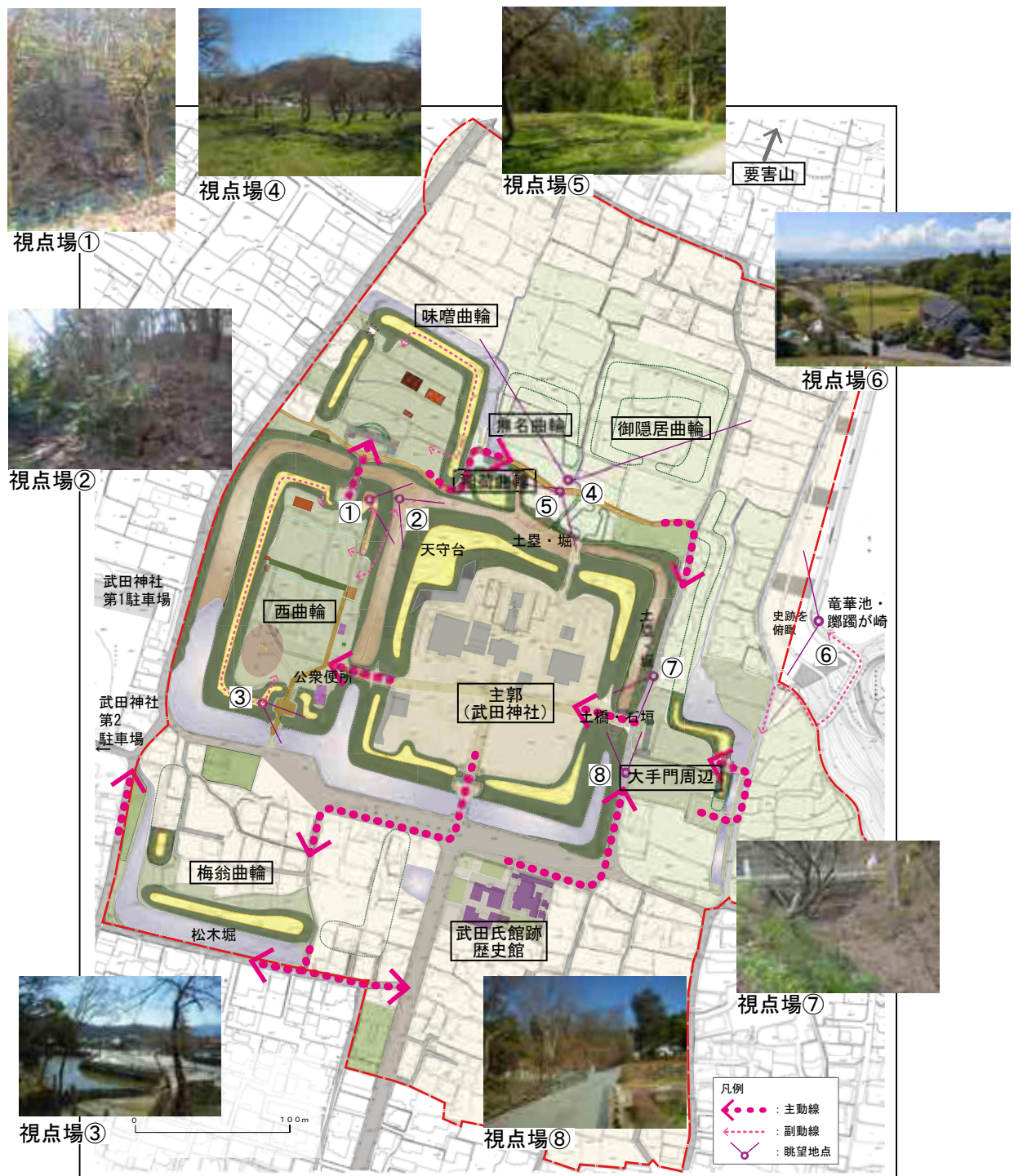
動線① 館の基本構造を知るコース S=1:4000

② 館の構造を探求するコース

武田氏館跡歴史館→大手門周辺→竜華池・躑躅が崎展望地点→主郭（武田神社）→西曲輪→味噌曲輪〈土塁・堀・馬出〉→稻荷曲輪・無名曲輪・御隠居曲輪（要害山への眺望）→主郭（西土塁・堀・土橋石垣）→梅翁曲輪→武田氏館跡歴史館・駐車場

館の構造をより深く知る動線であり、曲輪の配置や堀・土塁の壮大さを体感する。

館跡本来の正面となる大手門周辺から主郭に入り、西曲輪、味噌曲輪ほかの北側の各曲輪を巡り、再度大手門から主郭を経て梅翁曲輪に到る。堀・土塁や要害山などの眺望地点を楽しみながら館跡の構造を最も理解できる。主要な遺構の他、館の防御性の高さを体感するための副動線として土塁上や堀底を視点場とする方策を検討し、館跡を総合的に体験できる動線を作る。



動線② 館の構造を探求するコース S=1:4000

③ 憩いとレクリエーションの場

主郭・西曲輪 …… 樹林、堀の水辺の景観

北側の各曲輪 …… 草花鑑賞空間、体験・学習空間、眺望空間、梅林

(味噌曲輪・無名曲輪・御隠居曲輪・稲荷曲輪)

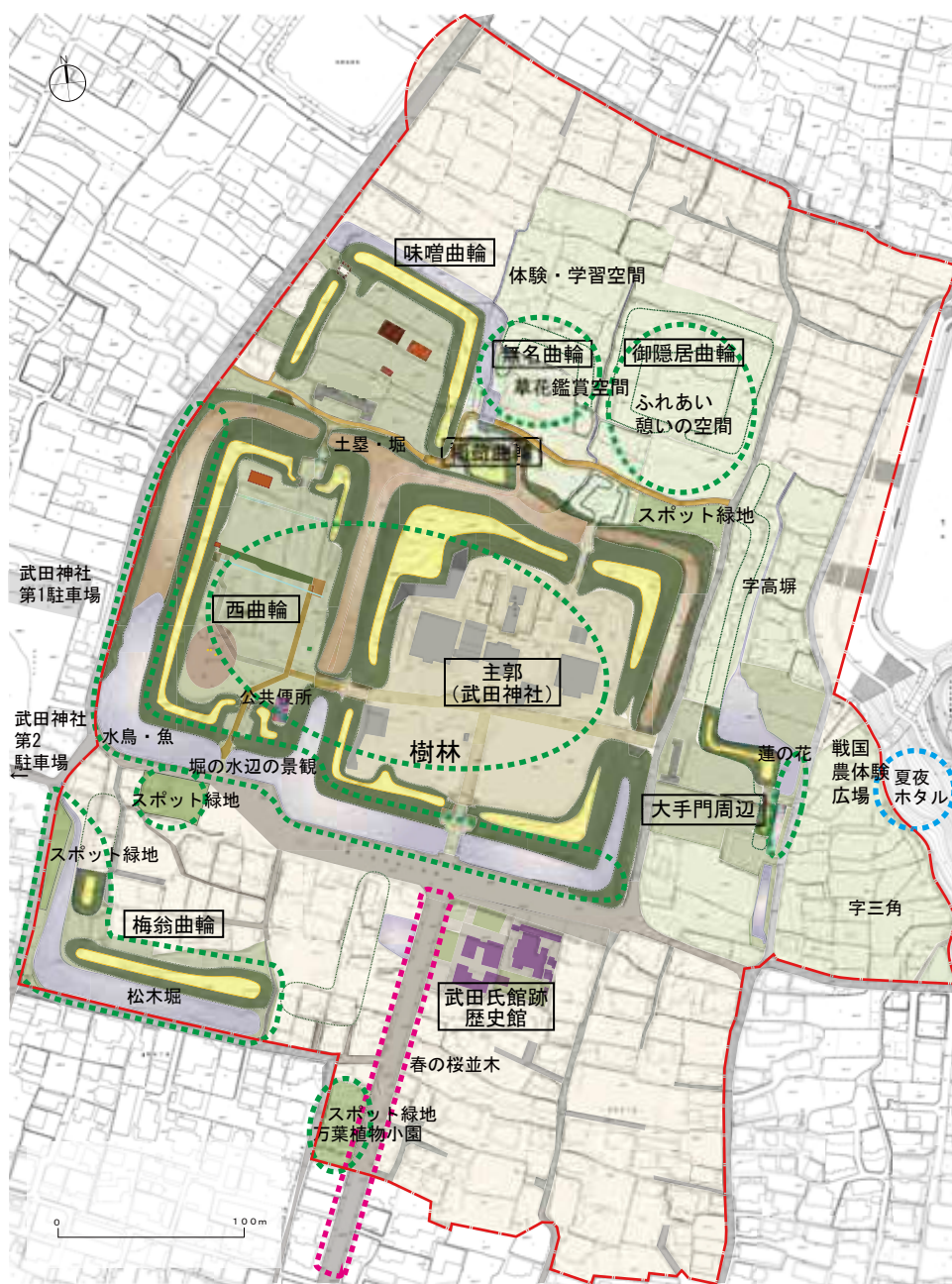
梅翁曲輪 …… 松木堀の景観、スポット緑地の散策・休憩

武田通り（県道）… スポット緑地（万葉植物小園）、春の桜並木

大手門周辺 …… 蓮の花

字三角 …… 夏夜のホタル

市民の憩いや多目的なレクリエーションの場として活用する空間とする。日常的な散策・休憩やイベント等の滞在型の利用を想定する。動線設定は必要ないが適切な便益施設（日陰棚・緑陰樹・休憩所・便所等）の配置と利用情報の提供等を行う。



動線③ 憩いとレクリエーションの場 S=1:4000



武田通りの桜並木



スポット緑地（万葉植物小園）



紅葉時の西曲輪北枡形虎口



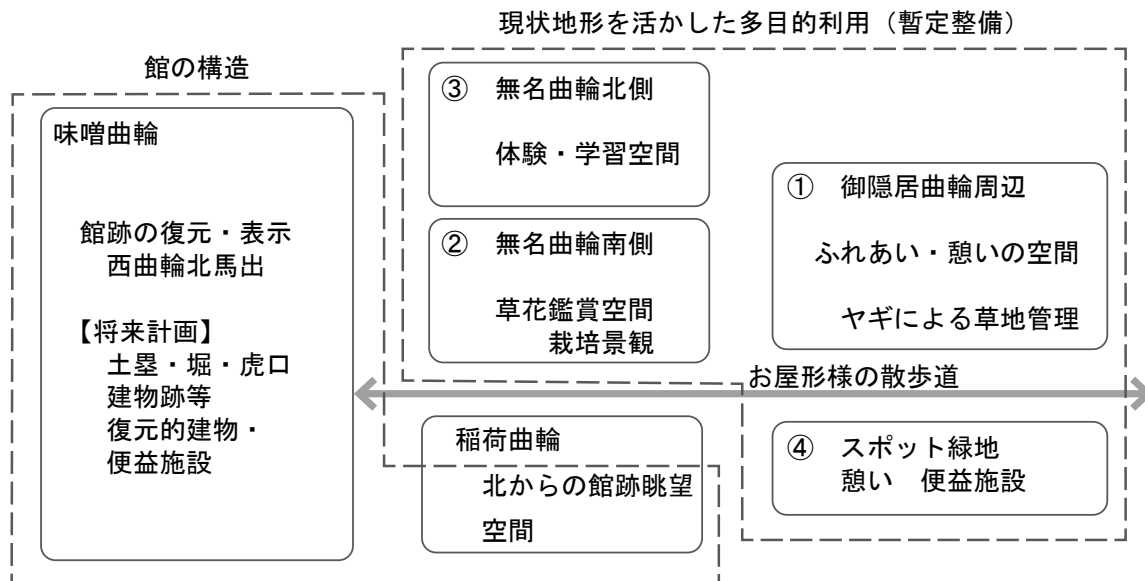
惣堀（蓮の花）

（2）多目的な活用

整備が完了している大手門東史跡公園や、本計画において整備する御隠居曲輪ゾーン・無名曲輪ゾーン・字三角ゾーンは、日常的な活用や各種のイベント開催に利用する。基本的には市民や散策目的の利用者による自由な活用方法を想定するが、中世・戦国をテーマとした独自性のある活用を目指す。

ア. 御隠居曲輪ゾーン・無名曲輪ゾーン・稲荷曲輪ゾーンの活用（P65の図参照）

憩いやレクリエーションへの活用を目的に、現状の地形を活かした簡便な環境整備を行う地区であり、想定される曲輪の形状や既存の石垣・水路の位置から、下図のように大きく4区域に分けて計画する。



無名曲輪・御隠居曲輪・稲荷曲輪 活用ゾーニング図

① 御隠居曲輪周辺（ふれあい・憩いの空間）

御隠居曲輪周辺の平坦な地形や既存の梅林を活かして、市民の日常的な運動や各種イベント等の多目的に用いる。草地管理にヤギを導入し、動物とのふれあいや憩いの場とする。

この方法はいくつかの史跡でも実績があり、集客要素のひとつにもなる。

御隠居曲輪の平坦な地形を活かして、近隣の日常的な運動場に利用する。毎朝の体操（ラジオ体操・太極拳・ヨガ等）やグラウンドゴルフ・ドッジボール等への利用について、自治会等を通じて市民に利用を呼び掛けていく。これらの活用においても、例えばグラウンドゴルフのホールポストに武田氏の家紋をデザインするなど、史跡の性格を連想するような工夫を取り入れる。



ヤギを用いた管理例（青森県八戸市・是川石器時代遺跡）
ヤギは賃貸サービス（2頭以上、冬季以外）を検討する。

② 無名曲輪南側（草花鑑賞空間）

見学園路となる既設の「お屋形様の散歩道」沿いに、古くから親しまれてきた当該地域の草花や山野草等の栽培展示を行う。曲輪の外周や石垣に沿って栽培種ごとに畑をつくり、季節毎に鑑賞し、また収穫・利用できるものとする。この栽培は地域の協力を得て行う。

栽培種の例 ナデシコ（甲府市の花）、ベニバナ、サクラソウ、オミナエシ、ヤマユリ、スミレ、ホトトギス、リンドウ、カキラン、ツツジ等



カワラナデシコ



サクラソウ



オミナエシ



ホトトギス



カキラン

（写真出典：『日本の野生植物Ⅰ～Ⅲ』1982年 平凡社）

③ 無名曲輪北側（体験・学習空間）

石垣や傾斜のある地形を活かした“あそび場”として利用する。中世・戦国をテーマとする遊びの中で、伝統的な遊びを伝承していく取り組みや、伝統に培われた生き抜く知恵を学ぶ場として活用する。

来場者がいつでも利用できる玩具や遊び方の解説書を用意し、見学利用者のほか、地元の子ども会や学校に利用を呼び掛ける。

伝統的なあそびの例として、凧あげ、独楽、羽根突き、竹とんぼ、竹馬、石けりなど

④ スポット緑地

御隠居曲輪南スポット緑地は、引き続き憩いの場として活用し、北側の各曲輪の活用を促進するため、水飲み及び便所を設置する。

イ. 字三角ゾーンの活用（P67の図参照）

字三角ゾーンのうち大手門周辺の惣堀・芝生広場に接する範囲を、戦国農体験広場とする。地域の協力のもとに学校教育との連携を図り、いくつかの既存の畑に伝統的な作物を植え付け、収穫までの間、水やりや草取り等の栽培管理を通して大人と子どもの世代間交流を図る。また収穫に伴って祭りを催す。例えば、学校のクラス単位で栽培することなども有効となる。

栽培作物の例（西曲輪の堀から出土した炭化種実を参考）

ヒエ アワ オオムギ コムギ ソバ ワタ エゴマ シソ エンドウ アズキ
ダイズ ササゲ



(写真出典：『標準原色図鑑全集 13 有用植物』昭和46年 保育社)

ウ. イベント等の開催

① 戦国イベント（大手門東史跡公園・字三角ゾーン）

馬出や土塁を整備した大手門東史跡公園及び字三角ゾーンを利用して、定期的に戦国イベントを開催する。

例えば、模擬合戦や城攻めイベント等はいくつかの史跡の活用や地域活性化の行事としても行われている。スポーツチャンバラは山梨県を含む全国規模の協会があり、世界選手権大会も開催されている。これらの事例を参考に、大手門周辺にふさわしい戦国イベントを定期的に企画・開催する。



城攻めイベントの事例：松江城
(市報松江 2015.11 号・松江市 HP より)



戦国模擬合戦（桜まつり家康行列）：岡崎市
岡崎市公式観光サイト岡崎おでかけナビ HP より

② 歌会（梅林）

御隠居曲輪の梅の花の盛りにさそわれて武田信玄をはじめとした人々が歌を詠んだ故事に因み、歌会を行う。御隠居曲輪周辺の既存の梅林を題材に、早春の開花期に芝生広場を会場として開催する。広く参加を募り、優秀作は武田氏館跡歴史館に掲示するなど公表方法を検討する。毎年開催することで武田氏館跡の風物詩として定着することを目指す。

相玉長伝の歌「詠こし心そあらね宿の梅 花は昔の春にゝほへは」『心珠詠藻』

③ 戦国サバイバル術体験

戦国時代に培われた陣中食や戦時の野営など、楽しみながら自力で生きる技術に触れるイベントを検討する。この体験は防災教育の一助にもなると思われる。開催時は指南と安全管理を兼ねる指導者のもとに行う。

陣中食：炒米、干飯、焼味噌、梅干、芋殻縄、兵糧丸、（ほうとう）等

野 営：陣幕を張り宿泊（電気・電話を使わない）

その他：火おこし、木製道具づくり等

（3）史跡見学の回遊性創出に向けた活用

ア. 武田氏館跡歴史館展示と現地の展示解説の連動

武田氏館跡歴史館の常設展示は、史跡整備や発掘調査と連動した展示内容を追加・更新していく。現地の解説板やパンフレットに展示室と統一した記号を用いるなど、史跡見学へと誘い、館跡の理解を深めることを目指す。さらに、現状では視認できない復元的な全体像を俯瞰するような、視覚的に分かり易い展示内容を拡充する。



武田氏館跡歴史館 展示室



武田氏館跡歴史館展示室（航空写真を利用した解説板）



武田氏館跡歴史館展示室（映像展示の復元鳥瞰図）

イ. モデルコースの活用

「5（1）動線計画」に示したモデルコースについて、見学の起点となる武田氏館跡歴史館付近に計画する総合案内板に表示するとともに、要所に動線を示す誘導標識を設ける「6（8）サイン計画参照」。基幹となる動線には統一した色調の舗装・塗装を施して誘導をはかる。

パンフレット等を利用して、各地点を巡ることで回答を得るQ&Aを用意することや、ビュー

ポイント（史跡の眺望地点）探しを促すものなど、探訪の動機付けとなるものを制作・配布する。

ウ. 歴史ボランティアガイド

武田氏館跡歴史館において、予約制により史跡を巡るボランティアガイドを行っているが、利用者が少ないのが現状である。

今後、利用の呼びかけや定時的な実施による利用者の拡大を図る。



歴史ボランティアガイドによる館跡散策

エ. デジタル技術の利用

今後、利用者の携帯端末に専用アプリケーションを取得し、武田氏館跡歴史館や史跡現地で発掘調査情報等を閲覧できるシステムの拡充を目指す。

解説板と連動した詳細情報や多言語解説を提供することや、現地において想定される曲輪の復元画像等を画面に表示するVR（仮想現実）・AR（拡張現実）の制作を検討する。



解説板にQRコードを活用した事例
（西鹿田中島遺跡・群馬県みどり市）



解説にQRコードを活用した事例
（葛西臨海公園水族館）



アプリケーションとの連携
（地図・旅行アプリケーション）

「黒井峯タイムトラベル」の使い方

古墳時代の集落を体験できます

- 黒井峯遺跡の現場を探索します。
- トップページのバーチャル案内ボタンから、現場の体験画面を表示します。
- ヒューマンインタフェースに入ると古墳時代の集落を再現した360度VRが表示されます。

スタンプラリーを楽しめます

- バーチャル現場でVRを遊ばせるとスタンプラリーのスタンプが自動で付きます。
- スタンプを全て集めるとオリジナルフォトフレームがプレゼントされます。

遺跡の解説を読めます

スタンプを押すだけで、スタンプラリーのヒューマンインタフェースから、各ポイントの解説を読めます。

「日本のポンペイ」をVRアプリで体験しよう！
「黒井峯タイムトラベル」登場！

古墳時代の集落をVRで再現!!

黒井峯タイムトラベル VR

黒井峯タイムトラベル(群馬県公式アプリ)は群馬県渋川市にある国指定史跡・黒井峯遺跡をヴァーチャルリアリティ(VR)の世界で体験しながら楽しく学べるアプリです。

黒井峯遺跡 現況

黒井峯タイムトラベル(群馬県公式アプリ)は群馬県渋川市にある国指定史跡・黒井峯遺跡をヴァーチャルリアリティ(VR)の世界で体験しながら楽しく学べるアプリです。

黒井峯遺跡 復元

まずは「黒井峯タイムトラベル」をダウンロード！
群馬県のホームページからダウンロード先を選択してください。
スマートフォンからQRコードで

【注意】 体験は個人が体験可能な内容です。 復元集落は1つだけ復元されています。

（問い合わせ先）
群馬県生活文化スポーツ部文化振興課県国文化推進室
〒571-8501 群馬県渋川市大町 1-1-1
電話 027-226-2525

VR活用事例（黒井峯遺跡・群馬県渋川市）

(4) 古府中の回遊動線創出

現在、武田氏館跡周辺の文化財を巡る3種のコースを設定し、散策ガイドマップを制作・配布するとともに、各地点に解説板を設置している。しかしながら、利用者が少ないのが現状であり、各地点においても伝承地等は解説板の文字情報だけでは魅力を伝えられない箇所もある。ガイドマップでは見つけ難い地点のあること、過去に設置した案内板や観光部局の設置した案内標識が混在することなどが利用上の課題となる。



館跡の北部 上府中コース
所要3時間 距離約5km



館跡の東部 墓所・菩提寺コース
所要2時間 距離約4.5 km



館跡の南部 家臣屋敷地散策コース
所要1時間 距離約2.5 km

関連文化財等散策ガイドマップ

ア. 案内施設の拡充

① 他部局との連携

設定した散策コースは古府中城下を知る文化財等をテーマとするものであるが、コース内には過去に甲府市教育委員会が設置した案内板や、山梨県が設置した「やますそ古の道」案内板、観光部局が設置した家臣屋敷跡解説板が混在する。利用者の混乱を避け、効率的に誘導するため、統一した計画のもとに案内・解説方法を検討する。



散策ガイドマップに合わせて設置された解説板



過去に設置された解説板



山梨県により設置された解説板



観光部局により設置された解説板

② 案内解説方法の拡充

ガイドマップで誘導する道について、分岐点には案内標識を設置するなど、利用者が迷わず行き付けるように拡充する。伝承地や跡地等の解説では古地図や遺構・遺物の画像など、視覚的な情報を充実させる。

今後、武田氏館跡で運用する携帯端末を利用した解説情報の提供を城下の案内地点に拡大していく。この方法は誘導にも有効で、例えば1コースを全周すると記念となる壁紙画像を取得できるなどの特典を設けることも考えられる。

イ. 古府中ガイドツアー

ボランティアを養成し、古府中城下への活動を広げる。参加者を募り、モデルコースを巡るガイドツアーを定期的実施する。例えば各地点の石造物や社寺等の解説を近隣の市民に依頼するなど、守り伝えてきた人々が主体者として参加したものとする。

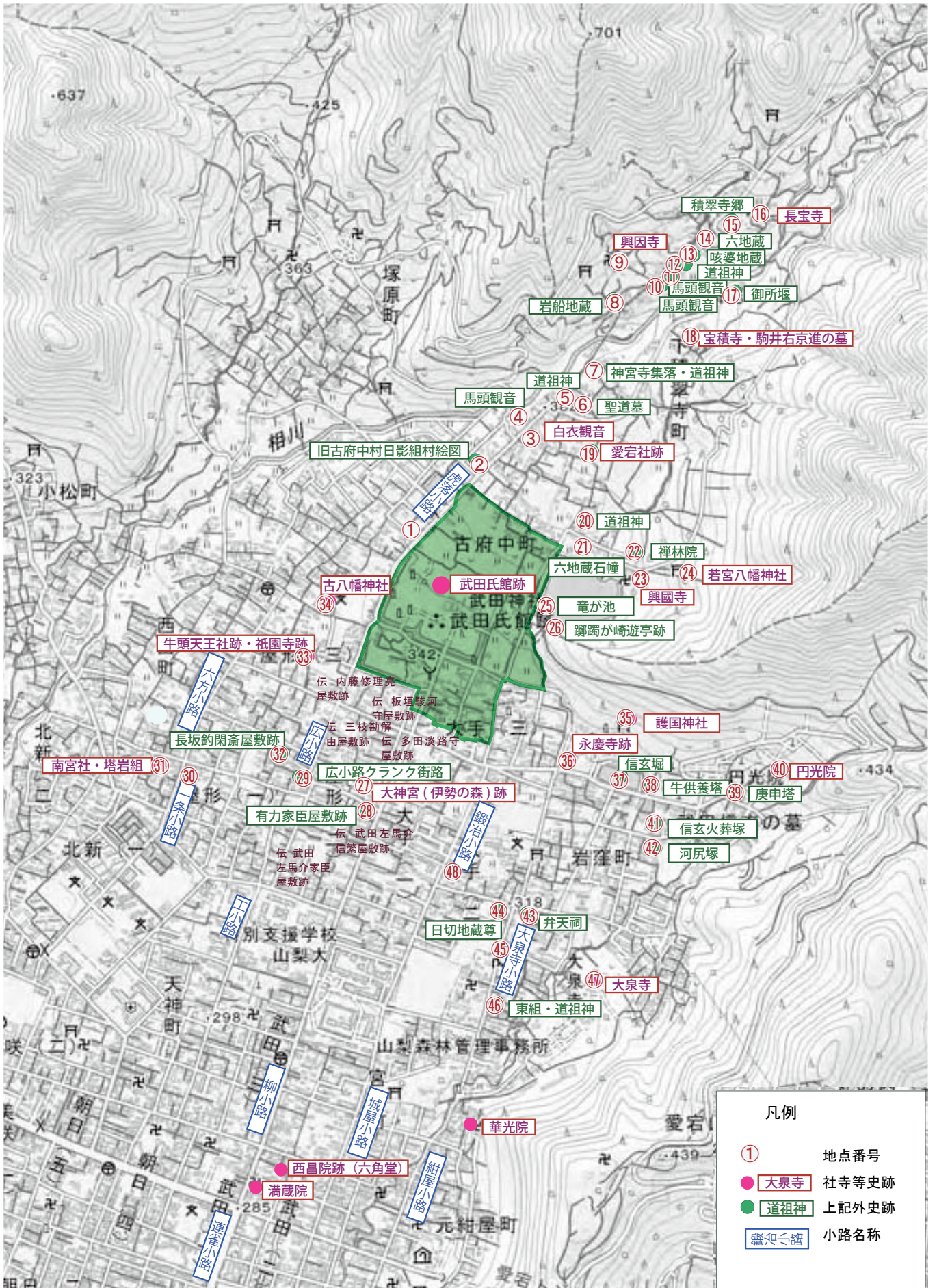
この取り組みを通じて武田氏館跡周辺の文化財の周知を図り、受け継がれてきた古府中の名残を市民の中に位置付けていく。



古府中ガイドツアー（市職員による案内）



子ども向けガイドツアー（市職員による案内）



周辺関連文化財等配置図

周辺関連文化財

(番号は前頁配置図内の地点番号、及び次頁からの写真番号に対応)

番号	名称	解説
1	虎落(もがり)小路	古府中町日影集落の西側を南北に貫く県道の沿線一体を地元では西小路と呼んでいるが、戦国時代にはこの道筋に虎落(もがり)小路の名称が記載されている。
2	旧古府中村日影組村絵図	武田氏滅亡後、この一帯は周辺より民家を移して開墾し、日影・峰本・塔岩・昌栄(正永)・東の五組で構成する古府中村がつくられた。普段見ることができないが、戦国城下町甲府の一端を描いた江戸時代の村絵図が残っている。武田氏館跡や周辺の家臣屋敷・寺社など城下町の様子を伝える重要な資料である。
8	岩船地蔵	興因寺南側の相川の近くに、岩船に乗った地蔵がある。享保4年(1719)、栃木県の高勝寺で祀る岩船地蔵が大流行し、地蔵は村から村へと送られその様子は祭りのように華やかであった。地蔵を送ったのち、村で独自に岩船地蔵を建てた名残である。
9	興因寺	曹洞宗の寺院で、アジサイの時期には参道沿いにたくさんの花が咲く。本堂の西南に甲斐国甲府藩主柳沢吉保・吉里の善政を支えた重臣柳沢保格(権太夫)の墓がある。
19	愛宕社跡	日影公会堂とその周辺は、信玄が相模国(神奈川県)の愛宕山から勝軍地蔵を移し、武田氏館の鬼門除けとして祀った愛宕社の跡である。
22	禅林院	甲府五山の一つである臨済宗能成寺の隠居寺として戦国時代の末頃に創建された。開山の竺英和尚は武田氏の一族と伝えられる。武田氏館の鬼門に位置する。
23	興國寺	武田不動尊で知られる曹洞宗寺院。かつて疫病が流行した際に、武田不動尊をささげ持って村内を巡回し、疫病退散を祈ったとし、現在もこの行事は、毎年2月11日に「お不動さん」の呼び名で続けられている。
27	大神宮(伊勢の森)跡	戦国時代に大神宮(伊勢神宮)が祀られていた場所。武田氏が信仰していた石和(笛吹市)の大神宮を戦国城下町甲府の建設に伴い、信虎が遷座したと伝えられる。近世甲府城下町に設けられた横近習町と柳町の大神宮は武田氏滅亡後にここから分祀されたものと伝えられる。旧地に祀られた大神宮の祠は、宅地化に伴い、現在は元柳公民館の一角に移されている。
28	有力家臣屋敷跡	家臣屋敷地の一角を占め、武田信繁の屋敷地と伝えられる。発掘調査では、建物跡などが見つかり、染付皿・碗、天目茶碗、白磁碗がまとめて埋納された形で出土した。それらは、信玄ミュージアムに展示されている。
29	広小路クランク街路	広小路は5本の南北基幹街路の一つである。現在の山梨大学教育学部の北側、屋形二丁目地内に広小路の小字が残っている。敵の侵入に備えたクランク状の屈折をとどめている。
30	一条小路	5本の南北基幹街路の一つで、最も西側に位置する。明治42年(1909)、甲府連隊の兵舎設営にともない大部分が失われたが、一部に痕跡が残る。名称は、武田信玄の弟一条信竜の屋敷が所在したことになむ。
31	南宮社・塔岩組	南宮社は諏訪南宮社と同一の神社で、甘利庄(韮崎市)の南宮大明神から分祀したものである。戦国城下町甲府の建設直後に建てられた神社で、元は一条信竜の屋敷地東側にあった。塔岩組は、武田氏滅亡後に、塔岩村(甲府市塔岩町)から村民の一部を移転させてつくった集落である。
32	長坂閑閑齋屋敷跡	釣閑齋は信玄・勝頼時代の家臣で、5本の南北基幹街路の一つ、広小路の西側に沿って屋敷を構えていたようで、この一帯の地名として残る「長閑」が往時を伝えている。
33	牛頭天王社跡・祇園寺跡	祇園寺は当山派修験(山伏)の寺院で、武田氏が武田氏館の南西(裏鬼門)に勧請した牛頭天王社の祭祀を司ったと伝えられる。武田氏滅亡後、甲府城築造に伴い、祇園寺は牛頭天王社とともに愛宕山西麓の元紺屋町に移された。
34	古八幡神社	信虎が甲府を開府する際、石和(笛吹市)で祀られていた八幡社を武田氏館の西側に移し、府中八幡とした。甲府城築造に際し、宮前町に移されるが、旧地の峯本公会堂裏手に古八幡の祠が残っている。また、古八幡神社旧地の西側の道を八幡小路と表記した資料もある。
36	永慶寺跡	甲府城主となった柳沢吉保は、城下郊外の岩窪に菩提寺の永慶寺を建立した。吉保は江戸(東京都)で亡くなるが、遺骸は永慶寺に運ばれ、葬儀が営まれた。柳沢家が、大和郡山(奈良県)へ移ると、永慶寺も城下へ移転した。
38	牛供養塔	牛は昔から荷物を運ぶなど、農作業に欠かせない身近な家畜であった。この牛供養塔は、火事で牛小屋が類焼し、農耕用に飼っていた牛が焼死したため、飼主が建てたものである。馬頭観音が多いのに対し、牛の供養塔は稀で、この周辺でも唯一のものである。
40	円光院	信玄の正室である三条夫人の墓がある。三条夫人は、京都の公卿の名門・三条家の出身で、父は右大臣公頼である。嫡男義信や二男竜宝などの生母である。
41	信玄火葬塚	信玄の遺体を火葬した場所と伝えられている。信玄はここに仮埋葬され、その死は3年間秘密にされたという。
44	日切地蔵尊	江戸時代後半に造られた地蔵尊である。この地にたどりつき、病没した修行僧の供養と厄除祈願のために、造立したと伝えられる。その後、長患いに苦しむ病人が一日も早く安楽になるよう祈願し、全治したときは米の粉の団子を、成仏したときは土の団子を供えるようになった。現在は、彼岸の日に集落の婦人が祭りをやっている。
45	大泉寺小路	5本の南北基幹街路の一つで、藤川に沿って南下し、紺屋小路に接続する。名称は、大泉寺の門前を通過することになむ。北部は市立北東中学校の建設などによって消滅している。
47	大泉寺	大永元年(1521)、信虎は自身の菩提寺として、夢見山の西麓に大泉寺を建立する。信虎は駿河(静岡県)に追放された後、天正2年(1574)に信州(長野県)伊那で生涯を終え、大泉寺で葬儀が行われ埋葬された。今は、子信玄、孫勝頼とともに並んで供養されている。武田氏関係の遺宝が数多く残り、信虎の三男道運軒信綱によって描かれた信虎の肖像画は国の重要文化財に指定されている。
48	鍛冶小路	北東中学校正門前の市道を戦国時代に鍛冶小路と呼んだ。沿線の両側には、長方形の土地区画が並び、鍛冶職人の屋敷地があったと推定される。発掘調査でもフイゴの羽口などが出土し、鍛冶職人の居住を裏付けている。



1 虎落小路



2 旧古府中村日影組村絵図



3 白衣観音



4 馬頭観音



5 道祖神



6 聖道墓



8 岩船地藏



9 興因寺



10 馬頭観音



12 道祖神



13 咳婆地藏



14 六地藏



15 積翠寺郷



16 長宝寺



17 御所堰



18 宝積寺・駒井右京進の墓



19 愛宕社跡



20 道祖神



21 六地藏石幢



22 禅林院



23 興國寺



24 若宮八幡神社



25 竜が池



26 躑躅が崎遊亭跡



27 大神宮（伊勢の森）跡



28 有力家臣屋敷跡



29 広小路クランク街路



30 一条小路



31 南宮社・塔岩組



32 長坂釣閑齋屋敷跡



33 牛頭天王社跡・祇園寺跡



34 古八幡神社



35 護国神社



36 永慶寺跡



37 信玄堀



38 牛供養塔



39 庚申塔



40 円光院（三条夫人の墓）



41 信玄火葬塚



42 河尻塚



43 弁天祠



44 日切地藏尊



45 大泉寺小路



46 東組・道祖神



47 大泉寺



48 鍛冶小路

(5) 関連文化財との活用連携

武田氏館跡に関連する県内の史跡指定された城館跡との活用連携を通じて、中世城館から織豊期城郭への変遷を解説し、相互に活用の推進を図っていく。

特に館跡背後の要害山は詰城として築かれ、令和2年(2020)に築城500年の節目の年となる。山城遺構や散策路、周辺文化財等の情報提供を行い、見学会等により普及啓発を図るなど武田氏館跡とともに積極的に活用を図っていく。

各史跡の案内解説において、関連城館跡に関する概説と案内を積極的に行い、活用イベントや企画展示、シンポジウムなどの共同開催について、所管する担当部局に呼びかけていく。



山梨県内関連城館跡配置図

(6) 学校教育・地域との連携

市内の小中学校や武田氏館跡周辺の市民との連携により、館跡及び古府中城下の文化財の活用を推進するとともに、将来の担い手の育成を図る。

ア. 学校教育

小中学校の歴史学習や総合学習において地域の歴史に関する課程を設けることや、課外学習の題材として館跡や古府中の歴史を取り上げることなど、学校教育との連携を図る。現在は、近隣小学校（相川小学校）の授業に武田氏館跡・城下の学習が組み込まれ、毎年散策会・講座を実施しているが、同様の取り組みを甲府市内全小中学校で実施できるよう、学校教育との連携を図り、教員への周知や教員用の資料を作成し配布することも検討する。

例えば、この一環として後述するボランティアガイドに「子どもガイド」を位置付けることや、環境整備、イベントに参加することも有意義な歴史学習となる。

イ. ボランティアガイド

現在、市民による武田氏館跡歴史館及び史跡のボランティアガイドを実施している。今後、さらに市民を対象に参加者を募り、充実した有人ガイドの体制を整えていく。

また、古府中城下のモデルコースに関するボランティアガイドや、関連文化財の管理・解説に関わる近隣の市民を養成していく。

ウ. 環境保全への参加

広大な史跡の公開環境を良好に保つことは活用の基礎である。この環境保全を市民参加で継続実施する取り組みを行う。その方法として、いくつかの管理を個別に依頼することや、将来的にはファンクラブやサポーターによる主体的な管理を依頼することも検討する。

・植物の育成

無名曲輪ゾーン・字三角ゾーンに計画する草花の鑑賞・農体験など広場管理は、農業技術を持つ市民の協力が不可欠である。近隣市民の協力のもとに学校教育と連動した植物の育成等を検討する。

・ヤギの管理

ヤギは比較的手間のかからない動物であるが、日々の飲み水の管理や目視による状況確認が必要となる。この管理には市民や学校との連携を図る。

・清掃・草刈

既設整備範囲や広場、スポット緑地の清掃・除草や未整備地の除草管理が不可欠となる。特典を付けたごみ拾いイベントを企画するなど史跡内の清掃・除草を市民参加で行うための動機付けや機会の創出を検討する。

エ. イベントへの参加

大手門東史跡公園や新たに整備する無名曲輪・御隠居曲輪・字三角の各ゾーンで行うイベントに、その準備段階から市民や児童・生徒が関わる仕組みをつくっていく。当面は事務局が呼び掛けていくつかのイベントを実施しつつ、やがては市民主体の企画・実施を目指していく。

当面検討するイベントの例

- ・歌会
- ・戦国イベント
- ・中世のあそび
- ・戦国サバイバル
- ・古府中のまち歩き

(7) 社会教育・生涯学習

現在、歴史文化財課や武田氏館跡歴史館、各機関・団体等により様々な講座やイベント等を実施している。今後とも関係機関や団体との連携をとりつつ、さらに内容の充実を図る。

ア. 歴史関連イベント

城下町の「歴史探訪」や「武田の館市」等を定期的実施しており、今後も継続していく。歴史ボランティアガイドによる既存の散策マップを活用した散策会等を充実させ、さらに発掘調査の進捗に合わせて現地見学会を開催し、武田氏館跡の周知を図るとともに最新の情報を発信する。他に市内のチャンバラ・鳥・草花・詩歌等の愛好団体と連携したイベントを行い、さらには特典企画等（天守台見学・堀底散策・史跡内スタンプラリーなど）を実施し、歴史や史跡に関心が薄い人々にも館跡を知ってもらい興味を持ってもらえるような取り組みを行う。

現行の歴史関連イベント

定期開催	
「武田城下ぶらり歴史探訪」(史跡および城下散策)	年3回
武田の館市	毎月第3土曜日
体育協会主催ライフスポーツ大会:武田氏館跡・城下町の散策会	年に1回程度
随時開催	
史跡武田氏館跡発掘調査現地見学会	
歴史ボランティアガイドを活用した散策会の実施(史跡要害山・円光院など)	



武田の館市

イ. 市民講座

現在実施している歴史講座や出前講座、子ども歴史学教室等を今後も継続して行い、一層の周知を図る。

現行の市民講座等

定期開催	
歴史学講座(年12回程度の開催のうち、2回程度は「武田氏三代と館跡」を開催)	年2回
歴史ボランティアガイドの育成講座	月1回程度
市各公民館主催事業の講座「武田氏三代と城下町」	年1回
子ども歴史学教室「これであなたも武田氏博士」	年2回
随時開催	
各課・公民館の出前講座や市民団体からの依頼により講座を開催(不定期)	
山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会共催「遺跡調査発表会」武田氏館跡発掘調査成果を随時発表	
開府500年関連	
開府500年講座の実施	
開府500年記念誌啓発事業(エディター講座・テーマ「武田氏三代と館跡」)	



歴史学講座



子ども歴史学教室



出前講座

ウ. 甲府市武田氏館跡歴史館

展示だけでなく、様々なイベントや講座等も行っており、今後は館跡現地と連動した内容を充実させることで、武田氏館跡としての周知を図る。

現行の武田氏館跡歴史館での活用イベント

随時開催 館独自のかるた作成・活用、お正月あそび、和綴じ本作成 座談会、館長トーク 小笠原流礼法講座
イベント開催 ナイトウォーク ワークシートの作成 (開府500年・信玄公からの挑戦状(風:小学生向け、林:中・高校生向け、火:一般向け、山:歴史愛好者向け))
特別展示の展示替え(3カ月に一度程度)
歴史ボランティアガイドによる案内解説



かるた大会



和綴じ本作成講座



小笠原流礼法講座

(8) 広報・PR

武田氏館跡歴史館をPRする事業を複数実施し、開府500年記念イベントでは各種の広報活動やPRイベントを展開している。

ホームページの改善やパンフレット製作を行ってきたが、武田氏館跡としての周知は十分とは言えず、今後はこれらの実績や効果を踏まえて関連部局と連携し、有効な活動を継続実施していく。

ア. 公共機関・交通機関への広報展示

現在は、武田氏館跡歴史館と観光部局が連携して広報展示等を行っている。今後は武田氏館跡についても公共機関や交通機関への情報提供を積極的に行い、より広域の人々に「武田氏館跡」をアピールしていく。

現行の公共機関・交通機関への広報展示

JR東日本・JR東海の企画事業への協賛と割引サービスの提供 県観光プロモーション課との協力事業(バイクツーリングキャンペーン中継地となる) 平成30年度全国史跡市町村協議会大会の会場として、史跡武田氏館跡の情報発信を実施
--



全国史跡市町村協議会大会 (エクスカーション)

イ. 観光施策・観光産業との連動

甲府市観光課では、平成27年3月に策定した『第2次甲府市観光振興基本計画』の基本方針の一つとして「開府500年関連事業の展開」（重要方針）を掲げ、「史跡武田氏館跡や付帯施設の整備を積極的に進め、信玄公生誕500年へとつなげていく」と位置づけ、武田氏館跡歴史館と協力した事業を実施している。

これらの取り組みについて、館跡現地と連動した事業となるよう関連部局の協力を求める。

現行の観光産業と連動した広報活動

甲府市・山梨大学・サドヤ共同スパークリングワイン「甲府」の醸造(史跡武田氏館跡(笹堀)から酵母を採取)
無料公衆無線LAN環境の整備
各地の「県人会」などでの講演会実施によるPRの実施
甲府市全職員によるシティプロモーションの推進(名刺など)
戦国バサラパネルとスタンプラリーポイント設置
観光キャンペーン及び広告への協力

ウ. PRツールの制作

各種の広報・PR活動や歴史学習等に用いることを目的に、多様なPRツールを制作していく。これは、調査や整備の進捗、活用の状況等により逐次追加・更新していくことが効果的となる。

PRツールの例

- ・学校向け：歴史副読本 絵本
- ・市民向け：歴史館展示図録 企画展示図録 解説・復元映像
活用啓発パンフレット
- ・観光向け：パンフレット 紹介映像 ポスター ホームページ SNS
- ・学術向け：調査・研究書籍（概報等）

現行のPRツール制作

観光情報の発信強化・充実として、市ホームページを改善・拡充し、SNSを活用した情報発信を実施
文化財散策マップ(3種類)・史跡武田氏館跡パンフレットの製作
開府500年記念誌の作成



武田氏館跡歴史館（シアター）



武田氏館跡歴史館（常設展示）